

がん患者らカフェで語らう

悩みにも共感、心軽く

宇都宮

がんをはじめ病気の悩みを抱える患者や家族と医師、看護師らがお茶を飲みながら語り合う「まちなかメディカルカフェ」が28日、宇都宮市江野町の「下野新聞NEWS CAFE」で開かれた。参加したがん経験者、家族はリラックスしたムードのおしゃべりで心中を吐露し「心が軽くなった」と明るい表情をみせた。

県内の医療者、ソ



シャルワーカールでつくる「がんカフェ」として、(代表・平林かき)が初めて催した。おる県がんセンター医師に生きられるよう支援する狙い。がん経験者、

家族各1人が参加した。2011年に直腸がんの手術を受け人工肛

和やかなムードのメディカルカフェで、がんを患った女性と語り合う平林代表(右)＝28日午前、宇都宮市の下野新聞NEWS CAFE

門を使う宇都宮市の女性(63)とペテラン訪問看護師永井恵子さん(58)とのおしゃべりは、女性の愛犬の話題から始まった。

遠慮しがち。気軽な雰囲気です。在宅医療のことがよく分かった」と安心した様子だった。

今後月1回開く。次回は同じ会場で5月26日午前10時～正午。問い合わせは事務局の市川明さん、電話028・6335・7549、メールgancat@tochigi@gmail.com。

会話の流れの中、女性が「いずれ自分で動けなくなるかも知れない。そんな時どうしたら…」と不安を打ち明けると、永井さんは「自宅療養という選択肢がある」と応じ、在宅医療について説明。自らも乳がん経験者である平林代表(55)も、話に耳を傾けた。

女性は「カフェで自分の疑問を聞いていいのだろうか」とためらいもあったという。病院での医師への質問は

なくていいんだよ」と励まされ、共感し合

(山崎一洋)